

土門拳記念館より、夏の展覧会をお知らせいたします。

3展同時開催

☞ The Hands – 土門拳が撮った手 –

土門拳の写真には多くの「手」が写されています。熟達した職人の手、昭和を代表する著名人たちの手、そして仏像の手まで、土門はさまざまな「手」を凝視し、独自の視点からそれらの魅力を切り撮りました。一方、瞬間的なスナップショットの中にたまたま映り込んだ手が、強い存在感を放っていることもあります。「手は口ほどにものを言う」——そんな言葉が思い浮かんできそうな、多彩な表情を持った「土門拳が撮った手」を、ジャンルを横断してお届けいたします。



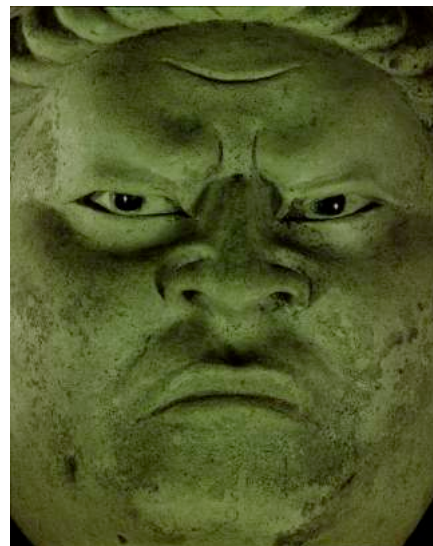
《文五郎の左手》 / 1941年

☞ 古寺巡礼 Summer Collection

今年度は新しい試みとして、「古寺巡礼」を四季に合わせて展開します。2つめのパッケージとなるサマー・コレクションでは、「夏」をテーマに仏像や寺院をセレクト。灼熱の形相で迫る仏像から、涼しげな古寺の風景まで、さまざまな角度から「夏」を想起させる作品群をお楽しみください。

☞ 遊ぶこども・働くこども

「こども」の撮影の名手としても知られた土門拳。活発なこどもたちの屈託のない表情が愛されてきた一方で、土門は昭和 / 戦後という時代状況の中でさまざまな仕事に従事しなければならなかったこどもたちの姿も写しています。自らも貧しい幼少期を過ごした土門にとって、「こども」という被写体には特別な思い入れがあったのかもしれませんが。「遊び」と「労働」という2つの視点から、土門が写したこどもたちの姿を振り返ります。



《東大寺戒壇堂多聞天立像面相》 / 1967年

2022年7月7日 [木] ☞ 8月29日 [月] 会期中無休

午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料：一般700円 / 高校生350円 / 中学生以下無料

会期中のイベント

●小中学生対象 夏休み親子ワークショップ ピンホールカメラ体験教室
7/24 (日) *7/3 (日) 10時予約受付スタート (詳細は土門拳記念館ウェブサイトにて)

●トークイベント 堤勝雄「弟子が語る土門拳」
7/30 (土) 14:00～ / 参加無料 (要入館料) / 予約受付中

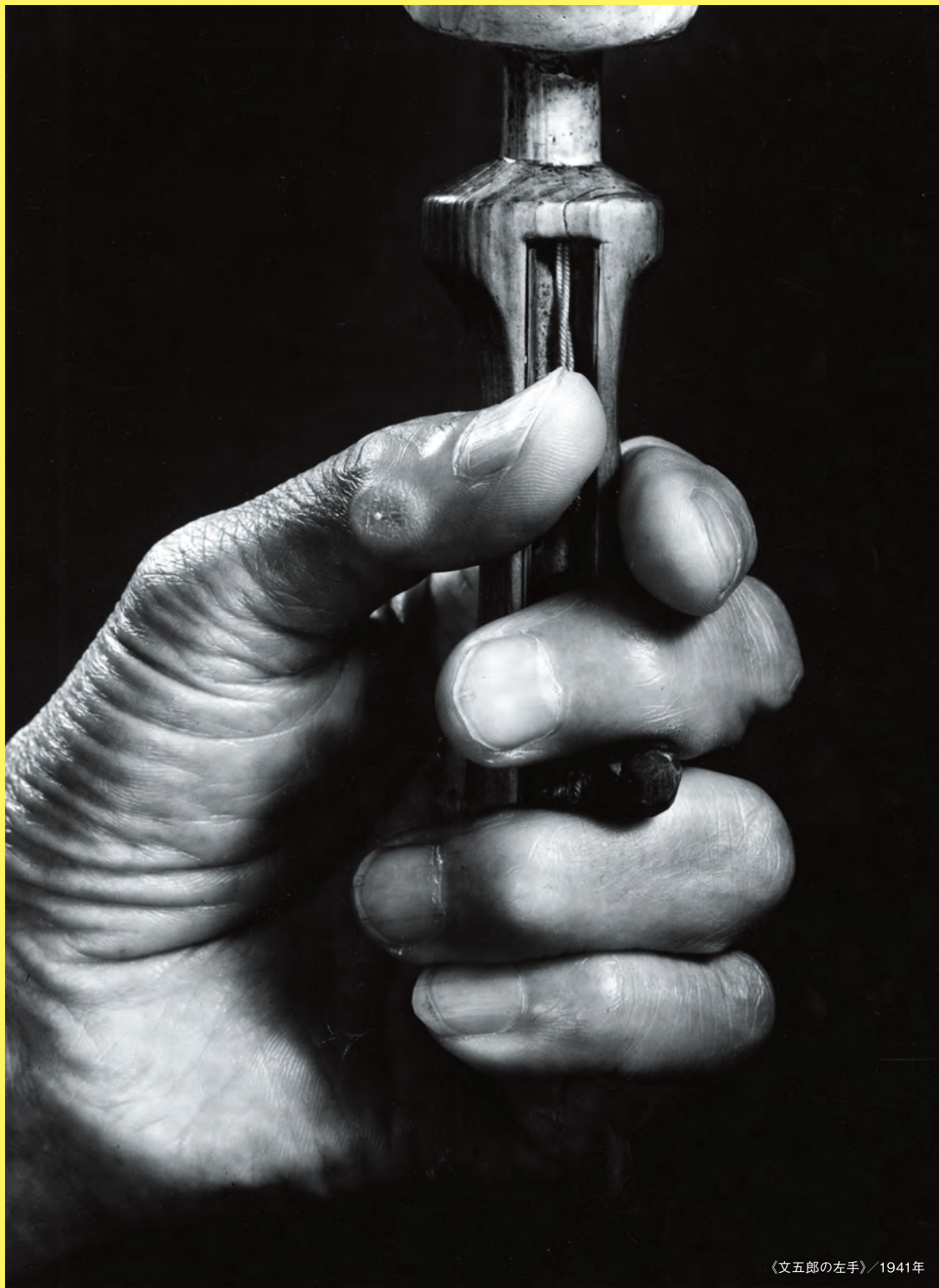
●学芸員によるギャラリートーク
7/9 (土)・8/20 (土)
各日 14:00～14:30 / 定員15名 / 参加無料 (要入館料) / 予約受付中



《子犬をもつ子》 / 1952年

The Hands

— 土門拳が撮った手 —



《文五郎の左手》/1941年

同時開催

- 古寺巡礼
Summer Collection
- 遊ぶ手も・働く手も

2022 7/7 [木] ▶ 8/29 [月]

会期中
無休

会期中の
イベント
いずれも要予約

7/24 [日] 小中学生対象
夏休み親子ワークショップ
ピンホールカメラ体験教室
※7/3[日]10時予約受付スタート

7/30 [土] トークイベント
堤勝雄「弟子が語る土門拳」
14:00~
参加無料(要入館料)
予約受付中

7/9 [土] 学芸員による
ギャラリートーク
14:00~14:30 / 定員15名 /
参加無料(要入館料)
予約受付中

午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料/一般700円(550円) 高校生350円(280円) 中学生以下無料
※()は20名以上の団体料金

Ken Domon Museum of Photography
土門拳記念館

山形県酒田市飯森山2丁目13(飯森山公園内)
TEL 0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

土門拳の写真には多くの「手」が写されています。熟達した職人の手、昭和を代表する著名人たちの手、そして仏像の手まで、土門はさまざまな「手」を凝視し、独自の視点からそれらの魅力を切り撮りました。一方、瞬間的なスナップショットの中にたまたま映り込んだ手が、強い存在感を放っていることもあります。“手は口ほどにものを言う”——そんな言葉が思い浮かんできそうな、多彩な表情を持った「土門拳が撮った手」を、ジャンルを横断してお届けいたします。



《陶工 菊揉み》／1938～1939年頃



《唐招提寺金堂千手観音立像右脇千手詳細》／1963年

The Hands

—土門拳が撮った手—



《東大寺 蓮》／1967年



《東大寺戒壇堂多聞天立像面相》／1967年

今年度は新しい試みとして、「古寺巡礼」を四季に合わせて展開します。2つめのパッケージとなるサマー・コレクションでは、「夏」をテーマに仏像や寺院をセレクト。灼熱の形相で迫る仏像から、涼しげな古寺の風景まで、さまざまな角度から「夏」を想起させる作品群をお楽しみください。

古寺巡礼

Summer Collection

「子ども」の撮影の名手としても知られた土門拳。活発な子どもたちの屈託のない表情が愛されてきた一方で、土門は昭和／戦後という時代状況の中でさまざまな仕事に従事しなければならなかった子どもたちの姿も写しています。自らも貧しい幼少期を過ごした土門にとって、「子ども」という被写体には特別な思い入れがあったのかもしれませんが。「遊び」と「労働」という2つの視点から、土門が写した子どもたちの姿を振り返ります。

遊ぶ子ども・働く子ども



《子犬をもつ子》／1952年



《銀座のシューシャンボーイ》／1951～1952年頃

新型コロナウイルス感染症対策を実施しております。

今後の状況に応じて、展覧会やイベントに関する予定の変更が発生した場合は、当館ウェブサイトなどで随時お知らせいたします。